

# 「附属の歴史を顧みて」



横浜国立大学教育学部  
附属横浜中学校同窓会 会長

吉田 守人

(二十期)



河地先生からの手紙には、次の八名の先輩の名前が記されていました。

- ① 千葉景子 (第十五期)
- 元法務大臣
- ② 紀田純一郎 (第二期)
- 作家・評論家
- ③ 波木井賢 (第二十一期)
- ピオラ奏者
- ④ 桜井由躬雄 (ゆみお)
- (第十二期)

東大名誉教授(歴史学者)ベトナム国家大学名誉博士号授与平成二十四年十二月十七日死去(六十七歳)

- ⑤ 白井浩子 (第十期)

岡山大学準教授(生物学)第十四回猿橋賞受賞(女性科学者として最高)

- ⑥ 関水康司 (第十九期)

国際海事機関(IMO)第八代事務局長(日本人二人目)

- ⑦ 霞富士雄 (第七期)

順天堂医院乳腺センター長

日本乳癌学会名誉会長

この「やまなみ十四号」では、国際的に活躍されている関水康司氏に寄稿して頂き大変感謝しています。

座談会の話に戻りますが、今回は若い方たちへお願いすることになりました。同窓会には毎月一回、幹事会を開いています。

そこで幹事の方たちに集まって

もらい座談会を開こうということになりました。四十二期生の高田君、四十四期生の石川君、四十八期生の山口さん、五十七期生の小西君、そして司会進行役には五十二期生の鬼頭君にお願いして開催しました。平成二十八年九月十六日の神奈川新聞に一面広告の形で発刊されました。平成二十九年の総会で、この新聞記事我希望する方にお配りしますので楽しみにしてください。また創立七十周年記念誌にも座談会のご掲載されました。見事な出来栄に六期生の小松先輩(神奈川新聞社)に感謝しています。

附属横浜中学校は創立七十周年を迎えて、同窓会はこれからも地道に活動をし、未来に向けて発展していかなくてはなりません。未来とは今が入り口であると思います。

今後とも附属横浜中学校と同窓会のために、皆様のご協力を賜りますようお願いいたします。



作曲していただき、吹奏楽部の演奏によりこの式典で披露できたことを光栄に思います。

同じく九月十六日の神奈川新聞紙上で「座談会特集・母校を語る『生きる力を身につける』と題し、外務省首席事務官の木戸大介ロベルト氏(四十五期)、

塘優那生徒会長、曾原剛史同副会長と私の四人で対談し、本校

の特色ある教育活動の意義について語りながら、今の中学生たちが活躍する未来を展望しました。

他にも高田哲也氏(四十二期)、石川裕一氏(四十四期)、

山口千恵氏(四十八期)、鬼頭勇人氏(五十二期)、小西悠理氏(五十七期)の五人卒業生諸

氏からの思い出話や在校生へのエールも加わり、本校の教育が積み上げてきた成果をアピールする充実した紙面になったことを、感謝の気持ちとともに特筆しておきます。

このように今年度は多くの卒業生から話を聞く機会がありました。卒業して何年経っても記憶に残っている、楽しかった思い出や

真実に触れたときの感動です。立野と弘明寺、それぞれの校舎で過ごした三年間が、現在の同窓諸氏のご活躍につながっている

ことは、後輩たちには何よりの励みになります。これを機に、各々のお立場から母校の後輩たちにメッセージを送っていただける機会がさらに増えますようお願いいたします。

最後になりましたが、本校七十周年記念行事のために吉田守

人同窓会長をはじめ、多くの会

員の方々がご尽力くださり、ま

た多額の寄贈品をいただきましたこと心から御礼申し上げます。また七十周年記念誌もまもなく完成しますが、F Yを愛し

続けてくださる皆様の思いが詰まった素敵なアルバムになりましたことに重ねて感謝申し上げます。どうか会員の皆様には今後とも母校にあたたかいご支援をいただきますようお願いしま

す。

私たちが生きていく未来には、いまから予想もできない世界が待っていると言われますが、附属横浜中学校で学んだ同朋には、そのことを恐れず、むしろ困難な状況、未知な状況にあるときこそ、自分に何ができるかという期待感をもって乗り越えていってほしいと願います。これからも内外の連携を強め、子どもたちが学びの道程を確かな足

どりで進んで行けますよう、教育活動に取り組んでまいりたいと存じます。



横浜国立大学教育学部  
附属横浜中学校 校長

中嶋 俊夫

## 創立七十周年

# F Y魂を受け継いで

# 未来を切り拓く



附属横浜中学校は、現在「F Y」と称して親しみをこめて呼ばれています。昔は単に「附属」と呼ばれていました。昭和二十

二年五月に「神奈川師範学校女子部の附属中学校」として設立されてから今日に至っています。この十年を振り返ってみます

同窓会ではこの創立七十周年記念にあたり、裏表紙に示すように、教室に備えられる掲示板図書室の書棚とソファア、運動場が使われる大型テントと朝礼台を寄贈しました。同窓会の文字が在校生の皆さんや父兄の方々の目にとまり、PR活動に大いに役立つと確信しております。

同窓会ではこの創立七十周年記念にあたり、裏表紙に示すように、教室に備えられる掲示板図書室の書棚とソファア、運動場が使われる大型テントと朝礼台を寄贈しました。同窓会の文字が在校生の皆さんや父兄の方々の目にとまり、PR活動に大いに役立つと確信しております。

同窓会ではこの創立七十周年記念にあたり、裏表紙に示すように、教室に備えられる掲示板図書室の書棚とソファア、運動場が使われる大型テントと朝礼台を寄贈しました。同窓会の文字が在校生の皆さんや父兄の方々の目にとまり、PR活動に大いに役立つと確信しております。

同窓会ではこの創立七十周年記念にあたり、裏表紙に示すように、教室に備えられる掲示板図書室の書棚とソファア、運動場が使われる大型テントと朝礼台を寄贈しました。同窓会の文字が在校生の皆さんや父兄の方々の目にとまり、PR活動に大いに役立つと確信しております。

同窓会ではこの創立七十周年記念にあたり、裏表紙に示すように、教室に備えられる掲示板図書室の書棚とソファア、運動場が使われる大型テントと朝礼台を寄贈しました。同窓会の文字が在校生の皆さんや父兄の方々の目にとまり、PR活動に大いに役立つと確信しております。

同窓会ではこの創立七十周年記念にあたり、裏表紙に示すように、教室に備えられる掲示板図書室の書棚とソファア、運動場が使われる大型テントと朝礼台を寄贈しました。同窓会の文字が在校生の皆さんや父兄の方々の目にとまり、PR活動に大いに役立つと確信しております。

同窓会ではこの創立七十周年記念にあたり、裏表紙に示すように、教室に備えられる掲示板図書室の書棚とソファア、運動場が使われる大型テントと朝礼台を寄贈しました。同窓会の文字が在校生の皆さんや父兄の方々の目にとまり、PR活動に大いに役立つと確信しております。

横浜国立大学教育学部  
附属横浜中学校 校長

中嶋 俊夫

平成二十七年四月に十七代校長として本校に着任し、二年近くが過ぎようとしています。私が横浜国立大学教育人間科学部に赴任してからはもう十六年になります。その前は、お茶の水女子大学附属高等学校に音楽科教諭として勤め、同附属中学校の授業も担当していました。中学生や高校生と過ごしながら、たくたくに疲れる日々でしたが、振り返ってみると、生徒たちからたくさんエネルギーをもらっていたと思います。この二年間附属横浜中学校に身を置いて改めて感じることは、学校は一人一人が発揮する力がぶつかり、重なりあったりしながら、ダイナミックな動きを生み出すところであるということです。こうして結集するエネルギーは、

集団と個人の間を往還して両者の成長を促しますが、そのことは本校の体育祭や学芸祭、TOF Yでの発表、そして部活動や日々の授業など、学校生活のそれぞれの場で実現しています。その中で私は、一つのことを成し遂げるために力を尽くすF Y生たちの姿が好きです。様々な活動で発揮されるF Y生の思考力や表現力は、作品や発表、研究成果となって実を結んでいます。どれもすばらしく、いつも感動させられてばかりいます。

さて、本校は今年度創立七十周年を迎えました。この七十年は、新しい時代の波や風を受けながら、一期生からバトンを受け継ぎ、未来を切り拓くために知の探究をし続けてきた年月です。その

この七十周年の記念行事の一環として様々な企画が実現しました。九月十六日には神奈川県立音楽堂で記念式典を挙行し、先輩諸氏のご参加をいただくとともに、卒業生で、NHKアナウンサーの渡邊あゆみ氏(二十六期)とヴァイオリニストの加納伊都氏(四十九期)から在校生にすてきなプレゼントがありました。渡邊氏からは進路選択の指針になるお話をユーモアたっぷりに、加納氏からはベートーヴェンのスプリング・ソナタ他の名演奏を興味深い解説を交えてしていただきましたが、どちらも生徒たちの心身の共振を引き起こし、さすが卒業生のなせる技と感心いたしました。また、横浜国立大学教育人間科学部音楽教育講座の私の同僚で、作曲家の島田広准教授に七十周年記念の委嘱作品として本校の校歌をモチーフにした祝典序曲を

このように今年度は多くの卒業生から話を聞く機会がありました。卒業して何年経っても記憶に残っている、楽しかった思い出や真実に触れたときの感動です。立野と弘明寺、それぞれの校舎で過ごした三年間が、現在の同窓諸氏のご活躍につながっていることは、後輩たちには何よりの励みになります。これを機に、各々のお立場から母校の後輩たちにメッセージを送っていただける機会がさらに増えますようお願いいたします。